

少子化対策について

藤倉 宗義議員

・質問 当市の合計特殊出生率〇・九六は国一・二九、県一・二〇、行田市一・一六、加須市一・一四と比較しても極めて低い。少子化対策で一番効果があるのは、何と

か。

いっても家庭の経済的負担を少なくすることだが、その一つの手段としての乳幼児医療費助成の拡充及び窓口立替払いの撤廃についてどう考えるか。

・答弁(市民福祉部長) 合計特殊出生率に影響するものとして、当市の出生数は十六年度を境に翌年は増加している。

院・通院とも小学校入学前まで、加須市は、入院通院とも小学校六年生まで、行田市は通院は小学校入学までで入院は中学校三年生までとなっている。これはそれぞれの自治体の財政事情等によっても異なってくるものと考えます。

窓口払いの撤廃について、メリットとしては、対象者の支給申請手続きの簡素化が図られること、市における窓口事務の簡素化・効率化が図られることなどが考えられる。一方デメリットは、国のペナ

ルティーとして国保事業への国庫負担金減額措置があり、これによる市財政への影響が懸念される。また各保険組合の付加給付及び高額療養費の還付給付制度との兼ね合いがあり、その事務処理は現在以上に複雑多岐にわたることが想定されることから慎重に検討する必要がある。

その他の質問

・羽生郵便局の駐車場不足について
・国道一二二号線から羽生駅西口への道路及び標識の整備について

水害対策について

齋藤 隆議員

・質問 去る五月二十日夕刻の豪雨は市の至る所で道路冠水、床下及び床上浸水等の甚大な浸水被害をもたらした。

・答弁(都市整備部長)

記録を取るようになってから、単位時間当りの降雨量は過去最高とのことであったが、その詳細な被害状況、宮田落の排水ポンプの停止等対応の遅

れ、中川改修及び調節池の整備について当局の見解を伺う。

町、元町を中心に五十九戸、床上浸水が東町で二箇所であった。

水の排除作業を行った。二十一日、二十二日には総務課、消防本部の職員により被害状況調査を行った。

被害への対処はまず、十五時三十分より集中豪雨による警戒態勢に基づき、職員に非常召集をかけた。五十九名の職員で道路冠水に伴う交通規制及び必要箇所への土嚢の配布、パトロールのための市内全域への職員配置を行った。

宮田落排水ポンプの停止の理由であるが、まず宮田落排水機場へ電気を供給している電線周辺に落雷があり一時的に停電となった。約三十分後に手動で再起動できたが、この対応の遅れは突然の天候の急変、土曜日であったために職員の動員に時間を要したことが原因と認識している。

今後このような事態とならぬよう異状通報システムの設置を検討するとともに、ポンプ運転時には監視員を配置し適切な運転管理の徹底を図って参りたい。

さらに消防車両四台、消防職員二十八名と消防本部との連携を図り、被害情報の収集及び東七・八丁目を中心に内

中川については、市街地における浸水被害を軽減させるために、現在、河道改修工事等を進めているところである。調節池の整備計画は関係地権者に対しての事業説明会が終了し、今年度中に用地買収に着手、平成十九年度から工事を着工する予定とのことである。

ていきたい。

*合計特殊出生率とは
人口統計上の指標で、一人の女性(十五歳から四十九歳まで)が一生涯に産む子供の数を示す。将来の人口の自然増減を推測できる。その境界値は二・〇八とされている。